

地方創生事業好事例紹介

じゃぱにうむ

じゃぱにうむレビュー 第19回

地域情報を発信する担い手として地域経済の活性化に貢献する  
地域ブランドオーガナイザー  
石川印刷株式会社

石川印刷株式会社

所在地：石川県七尾市本府中町ヲ部8の2

代表者：代表取締役社長 佐味 貴義

従業員数：20名(令和6年4月現在)

URL：https://ishikawap.com/

石川県七尾市の石川印刷は、活版印刷を起点に1952年に創業した老舗であり、チラシやカタログ、パッケージの紙媒体の制作から動画制作、Web、POPやデジタルサイネージに至るまでの多岐に亘るサービスを展開する総合印刷会社である。地震や豪雨に見舞われた被災地域にあって、既存の印刷事業で蓄えたノウハウを利用して自社のオンラインショップや情報サイトを運営し、地域の魅力を世界に発信する等、地元「能登」のブランディングを追求する石川印刷の取り組みを見ていきたい。

### 印刷事業から地域情報発信の担い手に

石川県能登地域は「能登の里山里海」と総称され、資源豊富な美しい山と海に囲まれている。そして、三方を海に囲まれた能登半島には、多くの漁港があり、魚文化が根付いた地域でもある。そこで、石川印刷は、能登らしさである魚をテーマにした「Fのさかな」という情報誌を2006年に創刊した。本誌の部数は、15,000部～30,000部、年に3～4回発行、40ページ前後のフリーペーパーである。これまでの発行部数は、延べ200万部に達する。「Fのさかな」のFは能登半島の形を表現しており、フィッシュやフレッシュの意味も併せ持つ。能登の近海でとれる魚介類をテーマにその特徴や食べ方等の特集しているが、自社で取材・編集するという徹底振りだ。現在では、主要観光PR拠点（空港や駅、道の駅の各所）、首都圏（築地市場や地下鉄駅等）や

中部、関西のPR拠点でも発刊されている。加えて、能登の食育・暮らし・自然・文化などを取り上げながら、能登の情報を発信する貴重な媒体である。特に地域情報については、旅行雑誌には掲載されていない地元情報が盛り込まれているというユニークな情報誌だ。多くのメディアに取り上げられ、内閣府や経済産業省等の各省庁が後援する日本地域コンテンツ大賞（日本タウン誌・フリーペーパー大賞）を何度も受賞しており、知名度も高い。「Fのさかな」を通じて能登、石川県のPRのために、企業や団体に対して広告を集稿するサポーター制度が充実しており、広告媒体としても有効な情報媒体でもある。石川印刷が「Fのさかな」を発刊したことで、他地域の印刷会社にも波及し、同様の企画が生まれた。愛媛県では地元の印刷会社が「Eのさかな」を発刊し、愛媛県の代表的な魚を題材に、地域の水産業や





食・暮らし・自然・文化などを取り上げて情報発信をすることで、その地域の魅力を伝え、地方創生に繋げている。正に印刷会社の新しい取り組みが水平展開され、地方創生に貢献する好事例と言えよう。

### 情報誌の制作からオンラインサイトで地域の特産物を販売

「Fのさかな」は電子化も進んでいる。登録すれば、パソコンやスマートフォン、タブレットで、過去2号分の特集記事を閲覧することが可能だ。また、定期購読会員になれば、それ以前の号の特集や、大人の食育等の特集記事が読み放題であり、登録は無料である。他にも「Fのさかな」の発刊情報や、イベント情報をYouTubeやLINE、ブログ等で配信する等、購読者に効率的なリーチをしている。

更に石川印刷は「Fのさかな本舗」というオンラインストアを運営している。自社でオンラインショップの運営を行うことにより、顧客目線のノウハウの蓄積を行っている。この能登半島の捕りたての刺身や一夜干し、牡蠣や香箱ガコといった魚介類のみならず、農産物や特産品も販売しており、厳選した能登の味を届けるサービスを行っている。商品に関する様々な相談に乗るコンシェルジュサービスもあり、顧客にとって痒いところに手が届くサービスだ。

一方で、「Fのさかな本舗」はYohoo!ショッピングとも連携しており、高い集客力を持つECモールへの出店により、顧客を自社サイトに誘引し、新規顧客獲得チャンネルの確立とPRオプションを可能にしているところが戦略的である。



### ドローン空撮動画で新たな地域資源・観光資源を発見

また、同社は、印刷で培ったノウハウを映像制作に活かし、新しい分野に挑戦している。それが、ドローンによる空撮の写真や動画の制作である。これまでは、企業紹介、店舗紹介を始め、イベント記録の撮影、教育、求人、集客に動画の制作を提供しており、Webでの動画公開でノウハウを蓄積してきた。



そのノウハウを活用して、石川県の魅力を発信する「いしかわの動画」Webサイトを運営している。従来の観光地PR映像では、人力による撮影の映像利用が一般的であったが、ドローン撮影であれば、



より臨場感のある映像が撮れる一方で、これまでにないシーンの撮影が可能だ。このドローンの空撮活用により、地域の隠れた魅力や資源を発見し、地域内外に効果的なPRをすることを可能にしている。実際にドローン映像は注目度も高く、短期間でSNSやネットによる拡散が可能であり、広範囲に亘って視聴者にリーチすることも可能である。そのため、地域ブランディングに資する取り組みだと言える。

このような取り組みは、正に知識と知恵と技術のたゆまぬ取得、発揮に努め、常に新しい価値創造を目指すという石川印刷の経営理念に実践した取り組みと言えよう。石川印刷の今後の活動に注目していきたい。